令和２年７月２日
第126回初中分科会
参　考　資　料　２

「ポストコロナ」を見据えた

新しい時代の初等中等教育の在り方について

令和2年7月2日

コロナ禍（臨時休校時）における子供たちの姿から見えてきた初等中等教育の課題

休校中の学習時間の分析より

- ○ 今までの初等中等教育で育ってきた高校生の多くは、学校・教員からの指示・発信がないと、“何をして良いか分からず”、学びを止めてしまう。→自立した学習者を育てられていなかった…
- ○ 普段（休校前）からの「デジタルコンテンツの授業活用」より、「友人等の他者との関係性の構築」
  休校中の「授業配信」より、「教員とのコミュニケーション」の方が、休校中の学習時間に関係

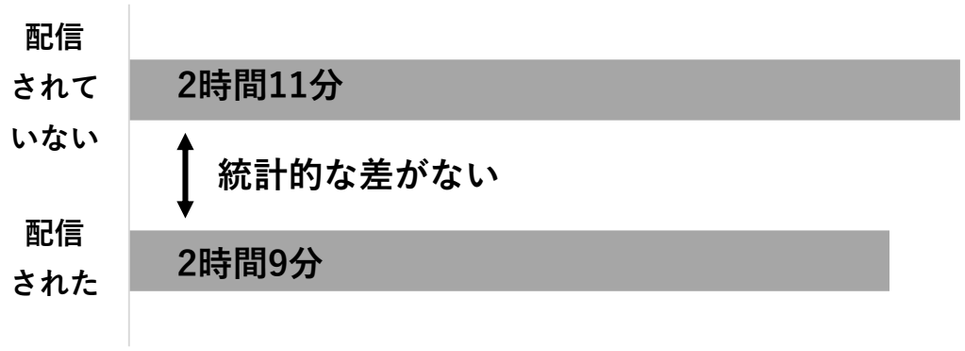
ＩＣＴの整備だけでは不十分。
デジタル化に加え、学習様式の転換と関係性の構築が重要。

【影響なし】休校前からの活用

休校中の学習時間と、休校前からのデジタルコンテンツ活用の関係は無かった

【影響なし】授業配信

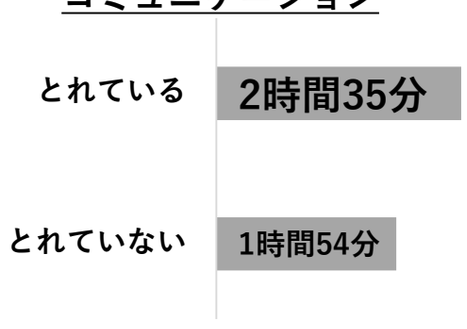
休校中の学習時間と受講必須の授業配信の関係は無かった



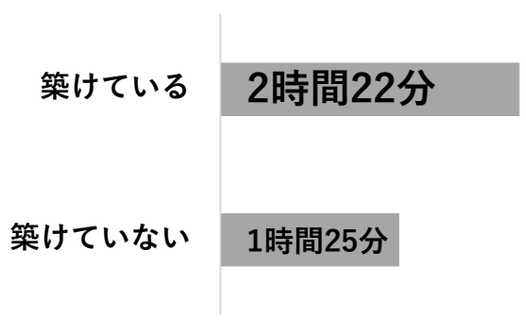
つながりの重要性

友人・教員との「つながり」が、休校中における学習時間に関連していたことがわかった

▶ 休校中の教員とのコミュニケーション



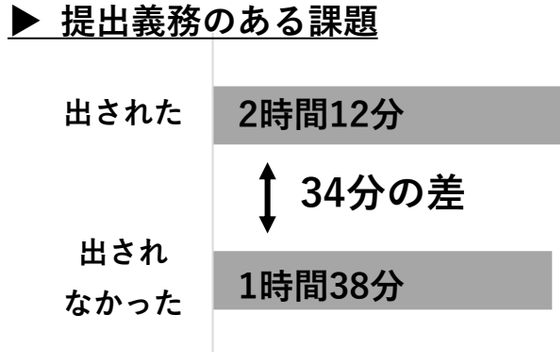
▶ 学校での他者との関係



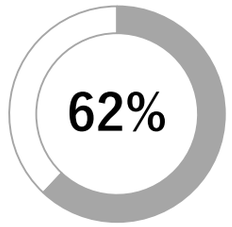
自立性の欠如

提出義務のある課題が必要で、教師からの指示がないと何をして良いか分からない生徒が大半であることがわかった

▶ 提出義務のある課題



学校からの情報発信がないと「何をして良いかわからない」



※高崎美佐・村松灯・田中智輝・中原淳(2020)「立教大学経営学部中原淳研究室 そのとき学びに何が起こったか：高校生の学習時間に焦点をあてて一新型コロナ感染拡大による学習環境の変化に関する調査報告会. 当日配布資料」

コロナ禍（臨時休校時）における子供の姿から見えてきた
初等中等教育の成果と新しい時代への兆し

一方、今回のコロナ禍（臨時休校時）において、教員からの指示がなくても学びを継続した生徒たちや自分のためだけでなく、地域や社会のために自らＩＣＴ等を学習・活用し、探究・活動した生徒たちの姿もあった。

【活動の一例】

岩手県 県立大船渡高等学校生	**ＩＴを活用した学習支援等への挑戦** 合同会社を立ち上げ小中学校向けの学習支援のホームページ制作、医療現場の待合室混雑緩和の予約システムの開発等に挑戦
愛知県 県立高浜高校地域活動部	**仕事が激減した福祉施設の支援** 高校生が開発した「セレクトギフト」の梱包作業を以前から交流がありコロナ禍で仕事が激減した福祉施設に委託
宮崎県 県立飯野高等学校生	**飲食店応援キャンペーン等の企画** 近隣校の生徒にも呼びかけ、地域の飲食店を応援するキャンペーン活動などを企画
北海道 N高等学校生	**コロナ感染経路確認アプリの開発** 感染経路不明者を減らしたいという思いで、ＧＰＳを活用し行動記録が自動的に記録できる無料アプリケーションを開発
愛媛県・福岡県など 全国の高校生有志	**君の想いは自粛するな・プロジェクト** 全国の高校生等に呼びかけ、コロナ終息後にやりたいことや夢、コロナ禍で気づいた大切なこと等を集約し、モザイクアートを制作

**こうした多くの
生徒たちに共通する点は…**

つながり

**教員や保護者、
地域の大人など
橋渡しや伴走をしてくれる
大人とのつながりがある**

対話・協働

**学校内外に本音の対話や
協働できる仲間がいる**

**刺激や勇気をくれる
同世代とのつながりがある**

自立・探究

**自分の興味・関心、
やりたいことを
探究した経験がある**

**自分でＰＤＣＡをまわす
経験や習慣がある**

社会・創造

**地域・社会の活動や
課題解決に参画・挑戦
したことがある**

**「未来は創れる」「社会は
変えられる」と信じている**

**個性・多様性（周りと違うこと）や挑戦・失敗を受けとめる安心安全な環境・土壌がある
指示命令・上意下達・閉鎖的というより、対話的で開かれ、主体性や自立性を尊重・促進する関係性・土壌がある**

学校教育の変わらない本質
日本の学校教育が育ててきたもの、そして「ポストコロナ」においても継承するもの

多様な子供を誰一人取り残すことなく
（家庭の経済的な状況・地域格差等に関わりなく）
知・徳・体を一体的に育む
健やかな学び（以下3つの機能）を保障する

学力保障【学習的機能】

◎学習機会の保障

〇学力（知識・技能、思考力・判断力・表現力、学びに向かう力等）育成のための学校

〇教科指導・授業（講義・演習、探究・協働、実習・実技等）

関係保障【社会的機能】

◎社会的・人間的な発達・成長の保障
- 社会の形成者としての資質・能力（協働性・社会性等）の育成

〇学びと生活の共同体（仲間・時間・空間）・場・土壌・文化としての学校

〇特別活動（学級活動、学校行事等）、キャリア教育、道徳教育、生徒指導　等
- 子供同士、教職員等の多様な他者とのつながり・関わり・集団活動・対話・協働　等

健康保障【福祉的機能】

◎安心安全の保障、身体的・精神的な健康の保障

〇安心安全な居場所・セーフティーネットとしての学校

〇養護・保健、健康管理・心理的支援、寄り添い・伴走　等
- 貧困・いじめ等の発見、生活リズム構築、心のケア　等

そのために、学校という場は必要不可欠である。
ただし、学校という場だけに閉じていては保障できない。

新しい時代を見据えた初等中等教育の方向性

新しい時代

Society5.0 … サイバー空間とフィジカル空間を高度に融合させたシステムにより、社会の課題を解決し価値を創造する、人間中心の社会※

予測困難な時代 … VUCA＝Volatility（変動性）・Uncertainty（不確実性）・Complexity（複雑性）・Ambiguity（曖昧性・両義性）が高い社会環境　等

育てたい資質・能力
（初等中等教育を通して育てたい18歳成人の姿）

ウェルビーイング＝身体的、精神的、社会的に健康（良好）な状態

Society5.0時代における 持続可能な社会と幸福な人生の創り手として、
予測困難な未来社会を自立的に生き 多様な人々と協働しながら 社会の形成に創造的に参画することができる資質・能力

初等中等教育の方向性

遠隔・オンライン教育や
先端技術（デジタル教材等）を活用し
個別最適化された学びを充実

対面指導や集団活動、
地域社会の多様な教育資源を活用し
社会とつながる真正な学びの充実

自立的な学び	協働的な学び	探究的な学び
主体的な学び	対話的な学び	深い学び

誰一人取り残されることなく
社会につながる教育環境の実現

誰もが情報社会・地域社会等とつながり、社会的に包摂される教育環境

社会に開かれた教育課程の実現

※Society 5.0の説明は内閣府及び経団連の定義を参照

新しい時代を見据えた
「新しい学習様式」の考え方

“どちらか（二項対立）”ではなく、“どちらも（二項往還）”
適切に組み合わせたハイブリット化を目指す

イメージ

情報社会に開かれた教育課程（得意な分野・領域）		地域社会に開かれた教育課程（得意な分野・領域）
遠隔・オンライン（サイバー空間・遠隔地・海外等）	⇔	対面・オフライン（学校・地域・現地現物現場等）
個別学習（講義・演習・反復・情報収集等）	⇔	協働学習（活動・実践・実習・実技・体験等）
知識（情報・数理・言語等）	⇔	学びに向かう力（社会性・人間性・感性等）
修得主義	⇔	履修主義
ＩＣＴ・デジタル技術（データ・理論・仮想等）	⇔	地域・社会資源（本物・真正・実体等）
・・・	⇔	・・・

未来社会に開かれた
カリキュラム・マネジメントの実現

教育目標の実現に向け、外部資源を効果的に活用・組み合わせながら、

横断的な視点で教育内容・方法を組織的に精選・配列し、ＰＤＣＡサイクルを構築

「分担」が「分断」に、「ハイブリッド」が「混乱・乱雑」にならないためには
マネジメント（連携・調整・管理）に関わる**機能・人材・体制の強化・充実が必須**である。

【参考】ハイブリッド化に向け
それぞれに関係が深い要素・価値観・考え方等のイメージ・例

情報社会	地域社会
国際化/標準化/共通化	地域化/特色化/多様化
人工的/機械的	人間的/生命的
知/理性	情/感性
数値/結果/達成	価値/過程/存在
見えやすい/測定可能	見えにくい/非認知
早く/先へ/進む/飛ぶ	深く/じっくり/味わう/満たす
効率/能率	無用の用
分析/分化	総合/統合
競争/競合/勝敗	共創/協働/共生
自由/自主/自立	公正/公平/平等
個人/個性/才能	仲間/チーム/共同体
個別最適	全体最適
ないものを創る	あるものを活かす
簡単便利/経済的	安心安全/福祉的
ワーク/業務/ジョブ型	ライフ/文化/家族的
短期/流行/新規性	長期/継承/持続性
経済資本	社会関係資本
…	…

こうした違いを内包したモノを「ハイブリッド化」「ベストミックス」「適切に組み合わせる」のは
口で言うほど簡単ではなく、高度なマネジメント機能・能力・体制及びそれらを支える仕組みの構築が必要である。

新しい時代の初等中等教育を実現するために
今すべきこと

学習指導のみならず生徒指導・部活動指導等の面でも主要な役割を担っている学校や教員が、
学習内容の削減は行わずに新たな課題や新たな学びへの対応を求める新学習指導要領の開始と
勤務時間の縮減に加え、コロナ禍に対応しながらGIGAスクールのICT活用にも対応し、
そして、多様な子供を誰一人取り残さずに、状況を総合的に把握し、個別最適化しながら、きめ細かに対応し、
日本型教育の良さを継承し、新たな要素のベストミックスもしながら、
知・徳・体を一体的に育む新しい時代の初等中等教育を実現する・・・

そんなことが今の学校の現状・資源でできるのだろうか？

ICTを活用した学校のデジタル化や社会に開いた外部資源の活用も、
導入時には学校現場の負担は増加する。

新しい時代の初等中等教育を実現するために、今、私たちがすべきことは、
学校現場に何かをさせようとするのではなく、学校現場が、力を存分に発揮できるよう、
学校や教員がすべき業務・役割・指導の範囲・内容・量を、縮減・精選・重点化すること、
そして、人的・物的資源を充分に供給・支援することであろう。

そのためには、
教育行政が、組織横断的な視点で仕組みや制度・業務を抜本的に見直し、
資源の確保・最適化を全力で行うことが重要である。

「ポストコロナ」を見据えた
新しい初等中等教育の実現に向けた国の取組

学校現場が力を存分に発揮できるよう
仕組みや制度・業務を抜本的に見直すとともに、
組織横断的な視点で資源の確保・最適化を全力で行う

教育のデジタル化の推進支援

●小中学校に加え高校までの1人１台の学校-自宅での活用可能環境の実現（BYOD等の方針明確化含む）

●全国の学校が使えるオンライン学習プラットフォーム（STEAMライブラリーやAI型ドリル教材等のデジタル教材含む）の構築

●デジタル教科書・教材の普及促進に向け使用制限及び授業目的公衆送信補償金制度（教委等も対象とする）等の見直し

●学習指導要領の重点化・コード化及び教育データ利活用の基盤となるデータ標準化等の整備

●学校外学習も含めたエビデンス（学習ログ、ポートフォリオ等）と対話に基づく学習評価の活用支援

●科目・単位・授業時数・履修要件等の見直し・弾力化（教育課程特例制度の改善等）

●先端科学技術の活用及びSTEAM教育の推進に向けた理科教育振興法・産業教育振興法等の改正

●学力調査、高校卒業程度認定試験、大学入試等のＣＢＴ化及び入試内容の精選・縮減・重点化　等

社会につながる教育環境の構築支援

●教員免許制度の改定（更新講習の見直し、社会人の免許状取得者拡充、総合学習・探究の特別免許状の認可等）

●学校及び教育行政での外部人材・社会人の活用支援制度（例：地域おこし協力隊・地域おこし企業人・集落支援員の学校版等）の構築

●外部専門家のデータベース化・活用支援制度（例：地域人材ネット・地域力創造アドバイザー、地域情報化アドバイザーの学校版）の構築

●社会との連携機能強化（事務職員・学校司書・実習助手・地域連携担当教職員等の配置・充実・役割改善、社会教育士の活用等）

●学校と社会の連携・協働体制構築（学校運営協議会及び協働本部・コンソーシアムの一体的運用等）の支援

●多核連携型の学校づくり（施設設備・教育課程等の共有化）及び部活動等の学校外への移行支援

●学級編制基準の計画的見直し（40人→30人程度）及び学校の標準規模・適正規模の考え方の見直し

●過密都市や大規模校等から地方や小規模校等への移動をしやすくする転学・地域留学等の支援制度の構築　等

学校マネジメント機能の充実支援

●社会と連携・協働したカリキュラム・マネジメントの中核となる教職員及びコーディネート人材の配置

●管理職がリーダーシップを発揮できる環境の整備（人事・予算権強化、任期見直し、処遇・研修充実、経営アドバイザー配置等）

●教職員の学習機会（探究・研究機会、地域・社会活動、大学院等での学び直し、多様な人事交流、サバティカル、兼業・副業等）の支援

●各設置者へのＣＩＯの配置及び業務プロセス再設計（ＢＰＲ）とデジタル化による教育行政・学校業務の効率化の推進

●各設置者・学校における臨時休校時等に子供の学習を止めないための学習継続計画の作成及び体制構築等の準備支援　等

意志ある未来
新しい教育を通して切り拓く未来社会

2020年度

●国及び都道府県・市区町村は社会の多様な主体と連携・協働し、新しい時代（新常態）を見据えた**部局横断の政策総動員**により、それぞれの現場の創意工夫を、**人・物・制度・情報等で力強く支援・伴走**する。
●現場では、学校・家庭・地域が「子供たちのために」という共通の想いでつながり、**大人も子供も共に学び、共に試行錯誤・探究**しながら、ＩＣＴの活用も含めてやれるところから・やれることから、力強く前進。
●各現場は地域をこえてつながりあい、それぞれの取り組みの**成功も失敗もそこからの学びも共有・伝播**し、地域やセクターを越えた学びあいや助けあい、連携・協働も生まれていく。

2021年度

●ＩＣＴインフラが全国の現場に整ったとき、教職員や子供、保護者、地域の人たちが共に「いよいよ、全面的にできる！」と喜びあい、休校の有無に関わらず、昨年度以上に**個別最適化された自立的な学び**や**社会につながる協働的・探究的な学び**を、全力で展開。
●遠隔教育・オンライン学習等は、コロナ禍の緊急的な運用によりトラブルは一部発生したが（早期に対処し、迅速に改善・学習を重ね）、臨時的「運用」で得られた多くの知賢から、**現場のための効果的な「制度・運用の仕組み」**を確立。
●GIGAスクール構想は、インフラ整備とデバイス配布に終わらず、**日本が積み上げてきた教育の強みを更に活かし**、弱みを補完する必要不可欠なものとして、高等学校教育改革・**教職員の働き方改革の起点**・起爆剤となる。
●コロナ禍の逆境と社会総がかりの探究が、子供も大人も大きく成長させ、人と人、**学校と家庭・地域の絆を結びなおす**機会となるとともに、コロナ禍をみんなで乗り越えた経験が、子供たちや教職員、保護者、地域の人たちの大きな自信と誇りとなる。
●コロナ禍における各地での探究や試行錯誤の過程を通して、「**予測不可能な社会を生きるために必要な資質・能力**」や「**探究的な学びの価値**」が日本全体に共有され、**社会総がかりで子供や学校を支え**、教育に参画する土壌がレガシーとして残る。

2022年度～

●コロナ禍を乗り越えた新しい時代の学校教育への期待や希望により、財政難においても教育予算は維持・拡充。全国の学校のＩＣＴ環境の維持・管理・更新コストは防災も含めた必要不可欠な**社会インフラとして社会全体で保持**。
●小規模校は地域社会や情報社会（ＩＣＴや先端技術）、他校とのつながりを活かした魅力ある学校として、過密都市からの**新たな人の流れ・人づくり・持続可能な地域づくりに必要不可欠な拠点**となる。
●誰一人取り残すことなく質の高い教育を行う魅力ある学校教育の実現により、**不登校やいじめ、教育格差、虐待等は減少**。
●教職員の多様な働き方とやりがいの向上により、社会の**多様な人材や若者が教員を目指す**ようになり、教職員の資質・能力が更に向上。
●2024年度の大学入試改革や一人一社制等の採用慣習の見直しにより、子供たちが身につけた**多様な資質・能力が充分に評価**されるようになり、意志ある多様な進路実現（地域・海外への留学・進学・就職等も含む）や社会に出ても学び続ける若者が増加。
●2025年の万博を機に、未来社会に開かれた日本の教育が海外からも注目を集め、**日本の教育の海外展開**と**海外からの留学**が加速。
●2025年以降の本格的な人口減少・少子高齢化・国際化・Society5.0時代においても、一人一人の可能性の開花により、日本の強みである文化・感性・創造性とモノづくり・科学技術の力を活かした**新たな地域創生、産業創出**を推進し、SDGs・新経済・財政健全化を実現。
●誰もが学び挑戦できる生涯学習・一億総活躍社会の推進により、持続可能で幸福度の高い日本、そして**教育立国・人財立国**として国際社会に貢献する課題解決先進国NIPPONを実現。

本資料は、中央教育審議会 初等中等教育分科会の新しい時代の初等中等教育の在り方特別部会等の議論を土台に、
現場の教職員・保護者・生徒をはじめ、学校教育に関わる行政・ＮＰＯ・大学・企業等の方々との対話を通して
中央教育審議会 初等中等教育分科会に関わる 今村 久美、岩本 悠、香山真一、神野 元基 等が
中心に取りまとめさせて頂いたものです。

新しい時代の初等中等教育を創造していくための一助になれば幸いです。